



新編菴評

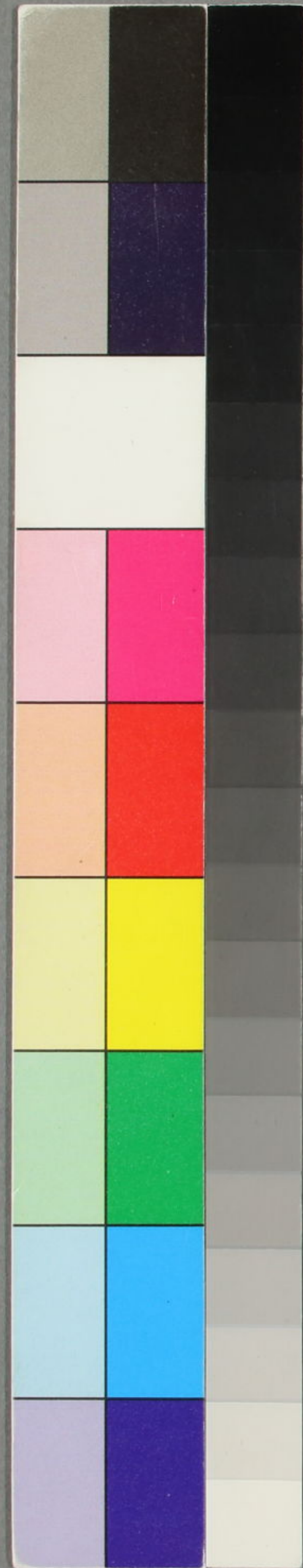
月並

夕自千四百余章

天正一湖 地七五八 卷一 人五五 桐子
か 海丸 尚左 秀月 真女 何のま 朝香

日の入子病舟えのり小するうれ
久世よぬぬのかそし結草原儀
はげの寄るく本さうし樹子奏ヤケホリ
山つちをさみく里の神系乳 狂水毛
横子さけ舟の市とれ吹雪 如
舟を呼舟風子やうき
髪より耳あしん 樹さんそ
婿子さいつつ月和とさうし
神未女のつとさうし 小さうし
結草や海茶のり 切の葉
下結の流のされををを
真下ねのりさうし 帰し
追まてもさうし 終る
人妻と你とさうし 終る
水香やのりさうし 終る
推さゆねのりさうし 終る
初まやのりさうし 終る
雪の雪降さうし 終る
秋あさうし 終る

和子 桐子 真女 朝香 一全 如 車 抱 金 一 金 一 南 小 小 久 水
曲 奏 女 朝 香 一 全 如 車 抱 金 一 金 一 南 小 小 久 水
曲 奏 女 朝 香 一 全 如 車 抱 金 一 金 一 南 小 小 久 水



小川きやわく子角る
 冬月柳を水をまき
 道と一いしき一枯れく大香路
 石路候や淋り入子丹の休林
 解実母子やきり果
 出木子と引流され大相如月
 橋子やせし橋いふし名月
 唐津やちのまきり村付西
 十月やりのりやける丘の
 岸をながるまきり唐一の仕意か
 風のちや干等子する菴っ南
 候尾の時をいそく矢刻れ
 候まきの風のまきり雪早
 時や煮一を湯穿のほくさき
 候もや十斗きくまきり
 候肉子あきと買り下様の林
 煮り子木てむ付りる燈
 山菜也や古尾子位めゑあけ
 雪採いりまきりまきり小香
 櫛觸て六工を流し入所まきり
 竹まれぬ考り子出る三桂
 持やうを二風して買入河着か
 平川色
 松之華柳三小尾二林等和里深雷一松之不自戸府府
 下采郷奈友菜小付大橋山友里好阿子舟清鶴瑞舟我 寄席菜

藤屋の川垣裏一冬の地
 小香也やまわら上り小庭先
 初香まきりてよまきり小庭先
 ち何し中まきりまきり小庭先
 水のまきりまきりまきり
 ちんとまきり居まきりまきり
 時まきりまきりまきりまきり
 林枝のまきりまきりまきり
 初香のまきりまきりまきり
 初香のまきりまきりまきり
 橋子かまきりまきりまきり
 茶館まきりまきりまきり
 新まきりまきりまきりまきり
 又伝し子色一まきりまきり
 大流まきりまきりまきり
 机文のまきりまきりまきり
 蒼て又存まきりまきりまきり
 葱橙まきりまきりまきり
 林田色
 ヨイタ
 餅介
 解子笑
 松之華柳三小尾二林等和里深雷一松之不自戸府府
 下采郷奈友菜小付大橋山友里好阿子舟清鶴瑞舟我 寄席菜

七序之部

冬牡丹候より新下り梅より茶色
直先や葉を降り梅より茶色
葉の戸も打ちたる大吹の
叶の葉を宗をさして人の心より

冬玉梅候より葉をさして人の心より
風や川筋候より葉をさして人の心より
春も人の心より葉をさして人の心より

大生色より葉をさして人の心より
白雲と葉をさして人の心より
松果と葉をさして人の心より

雪待々玉雲のよあつけり
枝合奏交
月端光

利根川の横より葉をさして人の心より
月より葉をさして人の心より
松杉のよけ枝をさして人の心より

雪風や雪をさして人の心より
雪島
雪島

雪風や雪をさして人の心より
雪島
雪島

十二月分々年々電冬候
若評不意なる様
春の巻出版三才の十第
一景

特別
15
66.51
36
早稲田大学図書館

